文化雑感

福崎町文化協会　内山嗣隆

「文化鍋文化住宅文化の日
これらに共通するものは何」

こんな狂歌を読んだことがある。

手近な新聞、雑誌を開いてみても文化という字のつく漢熟語を数えたら枚挙にいとまがない。気軽に使用されており、無数の語句と結合して使用される場合が多い。しかしながら、あらたまって文化とは何かと問われると簡単に答えることは困難である。

このたび、『福崎町文化』に執筆を依頼されたのを機会に文献をたよりに自分なりに文化なるものを整理してみたいと思う。

文化という言葉にはいろいろな意味があると思われるが一般に人々は、なんらかの意味で文学、音楽、絵画等といった人間の芸術活動に結びつけて考える人が多い。

また、なにか香り高い格調のあるものとして文化を考える人も少なくないと思われる。しかし文化はこのような理解の仕方だけで充分なのであろうか。

まず、「文化」という言葉の出典について考えてみよう。

日本では明治の初期に数多くの外国語が漢語に翻訳された。中国の古典語に新しい意味を付与する方法もとられたものと思われる。

「文化」という言葉は明治の初期に英語のculture、ドイツ語のkulturの翻訳語として使用されるようになったが、「文化」という言葉は当然のことながら中国の古典語であり、本来の意味は武力や刑罰などの権力を用いずに、学問、教育等によって民を導き教化することを意味する。また「文化」は文明開化の略語としても使用された。この二つの意味をもつ「文化」をcultureの翻訳語として採用したために文化を理解しにくくしたものと思われる。

手始めに三省堂の大英和辞典でcultureを引くと次の訳語が並んでいる。

①教養、洗練②修養、修練③耕作、栽培④培養、養殖、飼育

このように雑多な意味をもつことばを概念化すればどのようなことになるのであろうか国語辞典で調べてみよう。

中国の古典語としての意味と文明開化の略語としての説明を除けば次のように説明される。

①国語辞典（小学館）
自然に対して学問、芸術、道徳、宗教など人間の精神の働きによって作り出され、人間生活を高めて行く上の新しい価値を生み出していくもの。

②広辞苑（岩波書店）
人間が学習によって社会から習得した生活の仕方。衣食住をはじめ科学、技術、学問芸術、道徳、宗教など物心両面にわたる生活形成の様式と内容。

③日本語大辞典（講談社）
自然に働きかけて、人類の生活に役立たせる努力。学問、芸術、宗教などの人間の精神生活の産物。

以上、日本の代表的な国語辞典よりculture（文化）の意味を書き出してみたが、これを簡略に要約すれば知性、教養と物心両面における人間の生活の仕方又は生き方のスタイルとでも言えるかもしれない。

次ぎに文化にまつわる色々な考え方を各種文献から書き出してみよう。

①先に英和辞典でみたようにcultureという言葉のうちには作物を栽培するという意味が含まれている。これはそのものが本来持っている個性、素質、可能性といったものを人間の知識、努力によって発揮させ完成させることを意味する。

②文化は価値の創出であるが、その結果だけでなくものごとを生み出し、変容するその過程が大切である。たとえ模倣であっても能力を高めることにより独自の文化をうみ出すことが可能である。

③文化は国、特定の地域、特定の集団において生成されるものであり、親から子へ、祖先から子孫へ学習により伝承されていくものであり、また異文化と接触しつつ、相互に影響を与えつつ存在するものである。

④文化は国であれ地域であれ人間集団の持つ特性、性癖であり自己と他者を隔てる障壁であるともいえる、これが文明との大きな相違である。

⑤文化は人間の特定の集団が共有し

てそれぞれによって自己同一性を構成する有形無形のものである。

⑥文明と文化はベクトルが逆であり巨大な文明はそれぞれの人間集団が持つ文化的障壁をのり越えて、多様な人間集団を傘の下に包摂する。

⑦国際文化などと言われることがあるが我々は無意識のうちに生まれ育った国又は地域の文化にどっぷり浸かって生きている。その文化たるものは集団に共有され伝統的個性を持つものである。従って国際文化などは本来ありえないものである。それはむしろ技術とか文明に近いものである。

ここで関連する項目として文明について簡単にふれておこう。

文明はより物質的、技術的な概念であり、人間がより豊かに、より安全に生活するための富の生産と消費のシステムである。文明の傘の下に入れば、人は豊かに安全に暮せる。豊かさと安全を手に入れたいとの欲望は、ほとんどの人間に共通するので、ひとたびある地域に文明が形成されると周辺の貧しく危険な地域に住む人々は民族、言語、風俗習慣等の文化の差を越えて文明圏に流入する。このように文明は文化の次元を超えてどの民族のだれもが参加しうる広範な普遍性をもつ仕組みであるといえる。

以上、文化を考える際に参考になると思われることを羅列してみたが文化の一般的用法は次ぎの二つにまとめることが出来る。

①第1の用法

「文化国家」「文化的生活」「文化人」なる用法にあるように生活の中で特に「高級なもの」「豊かなもの」「知的水準の高いもの」というニュアンスで「知性」「教養」と言うような意味に近いもの

②第2の用法

「日本文化」「縄文文化」「食文化」のように歴史的に形成された外面的および内面的な生活様式であり、集団の全員又は特定のメンバーにより共有されるもの。

我々は過去においてどちらかというと文化を第1の用法の軽いものソフトなものとして考えてきた。しかし第2の用法がより基本的なものであり、重要であるが、文化というものはそこに生まれ育った者にとっては空気の存在と同じく元来自覚され難いものである。しかし現実には人間の生活は文化によって深く影響をうけている。

少なくとも日本の国に生まれた以上「日本語」と「日本文化」という世界に浸っている。そこでは雑多な異文化の影響をうけると同時に日本的な価値観とか人間関係や社会関係、組織、制度のあり方から衣食住にわたって簡単に消し去ることの出来ない日本文化を背負って生きている。

日本人として日本文化の影響が食物、衣服、遊びをはじめとして想像以上に深く心身に沁み込んでいる。このグローバルな時代にあってこそ、いまや文化は実は非常に重いものであると思われる。文化が違うといえば誰もがなんとなく納得するのだが、その文化の違いはどうして生じたのかとなると非常に難しい。それぞれの国や地域において長い時間の中で独特の文化が生み出されたというしかないのです。文化を重いものとして捉えその姿をきちんと見据える必要があるのではないか。

しかしながら、長い時間をかけて伝承されてきた文化を守り育てることは容易ではない。

「文明による文化の喪失」ということを耳にすることがある。

文明は物質的豊かさ便利さの享受とか欲望を充足する新たなものの創造といったもので効率性、普遍性、広域性を本来もっている。一方文化は内面性、精神性、伝承性などの特性をもっている。この文明的なものが文化的なものを押しのけようとしているのである。

食文化を例にとれば、科学技術の産物である「即席味噌汁」によって手間を省き時間の余裕を得ることが出来る。しかし一方で「手づくりの味噌汁」のもつ出汁、味噌、自然な具材のおいしさ、伝承されて来た家庭の味等手間ひまをかけることによる食文化が失われつつあるといわれる。また「子供の遊びの文化」を例にとれば科学技術の産物である「コンピューターゲーム」などの現代の遊びの特徴は一人部屋の中で決められたルールで遊ぶことである。文化としての昔の子供の遊びは屋内外で身体を触れ合いながら、ルールを話

し合いで決め、コミュニケーションをとりつつ遊ぶことにより子供同士でいろいろなことを学びあったものである。

このように文化として伝承されて来た昔からの子供の遊びが消滅しつつある。

また、日本の伝統的な服装である着物（和服）を着用する男性は稀であり、女性も急速に減少しつつある。生活の洋風化により避けえられないものであろうが、これも日本文化の喪失の一例であろう。

また、近頃電子書籍が話題をあつめている。これが普及すれば紙に印刷する現在の書籍は消滅するのではないかと言われている。もしこのようなことになれば本を手にする感触、その装丁の美しさ、書架にならべてながめる愉しみ、頁を繰る感動と言った書籍文化がなくなるかも知れない。

このように経済的効率性を優先するグローバリゼーションの中で古き良き伝統文化が衰退し消滅の危機に頻している。

これらは文明と文化の相克といえるかもしれないが、情報化する現代社会の中で日本人としての主体性や独自性が揺らいでいると言われる今日こそ伝統文化の維持継承が必要であると思われる。

しかしながら、それはそっくりそのままという意味ではなく、或る地域の或る時代の文化はその時代の社会環境の中で生まれ、育ち、やがて消え去るものもあるが、次の時代に多くのものが引き継がれていくであろう。それは進歩と言う観念では捉えにくいものである。科学技術や文明の便宜が如何に進歩したところで人間の真の喜び、哀しみは固有の伝統文化と切りはなしては考えられないのではないだろうか。

かつて、平成の大合併といわれた市町村合併が行われたときに、合併の可否を決定する論拠としていろいろなことが議論された。その中で文化の問題を提起した識者のあったことを記憶している。それは生まれ育った地域文化の大きく異なるところが合併してもうまく融和しないのではないかというような議論であったと思う。これなども地域の文化が我々の生活に大きく影響していることを意味するものであろう。

ここで文化に関連することでかつて読んだもので興味ある話を紹介しよう。

一つは日本語研究で知られる故金田一春彦氏の政治と日本文化に関する学説である。これによると「すぐれた文化の花開いた時代は政治はあまりうまく行われていなかった」と言うもので藤原道長時代の平安女性文化、徳川綱吉時代の元禄文化をあげて、政治家の悪名高いときに文化が栄えたことを論じておられる。この説によると今はさしずめ平成文化の花開くときかも知れない。

二つはアメリカ国民の政党支持についてである。選挙は共和党と民主党の二大政党によって争われる。アメリカは自由の国であり、誰にも強制されることのない社会の中で個人が独自の判断にもとづいて支持政党を決めるように思われているが必ずしもそうではないらしい。アメリカ人にとっては政党は一つの心のよりどころであり、境遇の似た者たちが寄り集まってつくるクラブのようなものであるらしい。

従って政党支持は父祖から伝えられて来た家庭の「文化」であり、家庭に伝わる「文化」は長期にわたって安定するものであるから、時代の政党状況等により変化はあるものの、そう簡単に変わるものではないようである。まさに文化とはそのようなものである。

最後に以前に読んだもので強く記憶に残っている文章があるのでこれを書き添えて結びにしたい。

文化を考える際に示唆に富んだ考えであると思う。

それは次の二つに要約することができる。

①教育とは人の思いを吸収することである。

②文化とは人が思いを発散することである。

教育についてはさておき、文化についていうならば人間は誰も一定の場所に定住し一定の生業を持ち向上したいと言う思いをもって生きている。思いを発散したいと思うのは人間性の発露である。たとえ人がどんなに多くの教養を外部から取り入れても、その人が自分の素質、向上心を育て発散しないならば文化人とは言えないであろう。